

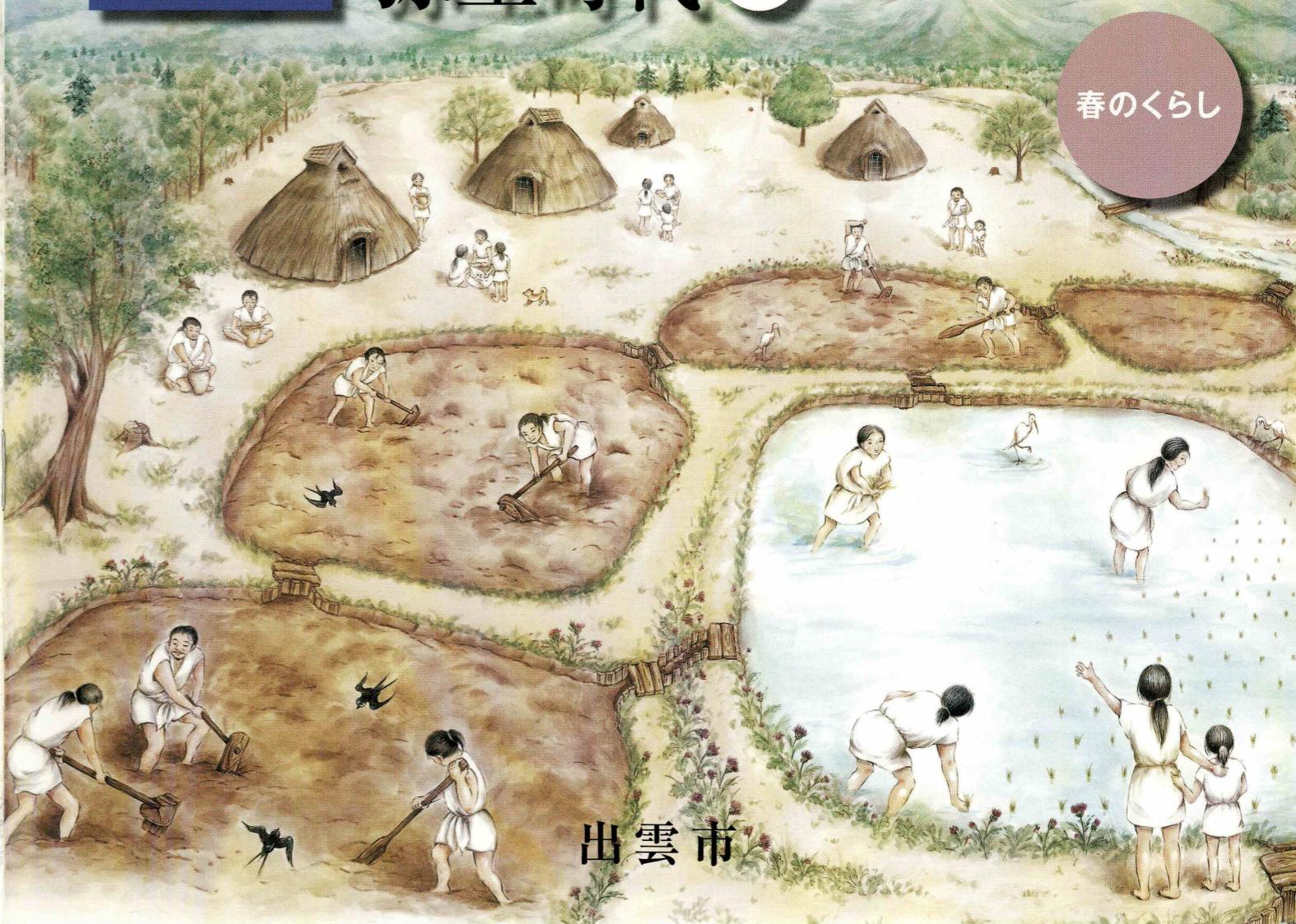


出雲平野の
弥生時代のおもなムラ

矢野遺跡

—やのいせき—

弥生時代編



矢野遺跡の概要

矢野遺跡（出雲市矢野町）は、出雲平野の中央部、標高約4mの微高地にあります。出雲平野で米作りが本格的にはじまった弥生時代前期（約2,500年前）から現代までたくさんの人たちが住んできた場所です。

特に、弥生時代に流れていた川や溝、土坑からたくさんの土器や石器などの遺物が出土しています。矢野遺跡の弥生人は自ら道具類を作り出し、米を主食に生活をしていたようです。



川岸に残った古代人の足跡

そして、弥生時代中期～後期になると九州や瀬戸内の土器などが出土するようになり、他地域の人と交流を深めていたことがわかります。また、ガラス製や碧玉製の勾玉や管玉などの装飾品から、リーダーの存在が推定できます。

本パンフレットは、平成13年～平成20年に実施した新内藤川改修工事に伴う発掘調査のうち、特に重要な成果のあった弥生時代についてまとめたものです。



■ 弥生～平安時代に流れていた川跡から出土した大量の木器と流木



■ 溝から出土した弥生前期の土器



■ 土坑から出土した弥生前期の土器

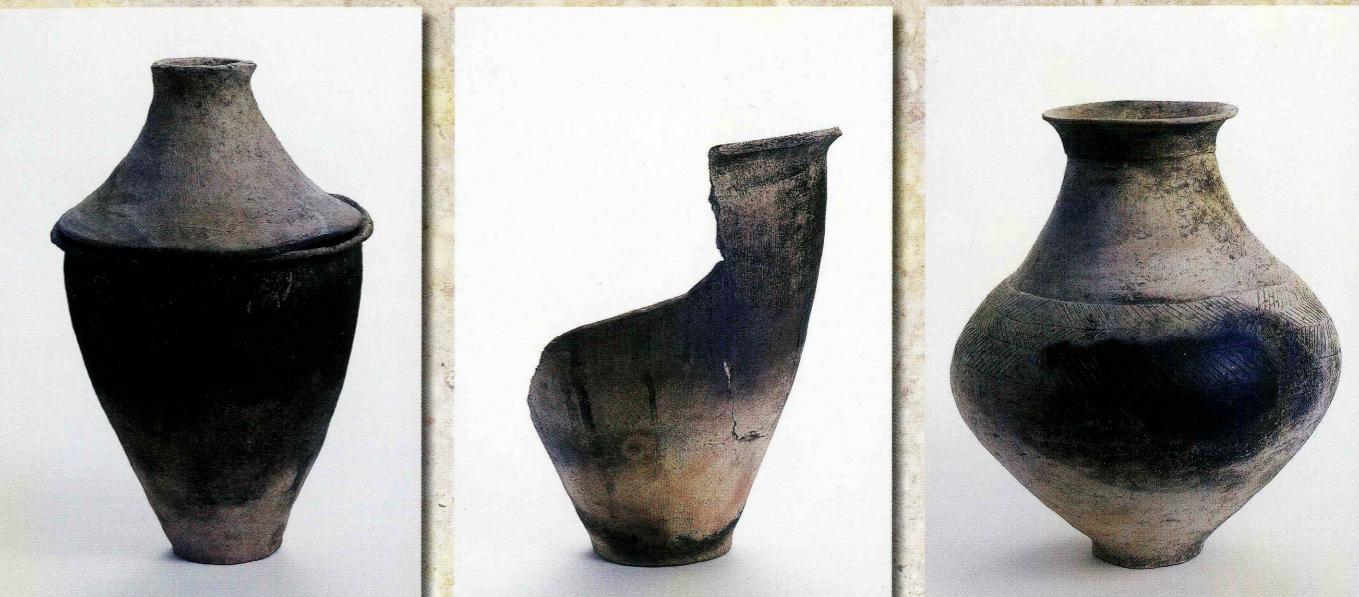
出雲に米作りが伝わった!

約2,500年前（弥生時代前期）から矢野遺跡で本格的に米作りが始まりました。
米を貯蔵する壺、米を炊く壺、米を炊く時に

つかった甕の蓋、食べ物を盛る鉢や高杯などが多く出土しました。一番大きな壺は何に使ったのでしょうか？



■ 川跡から出土した弥生前期の土器



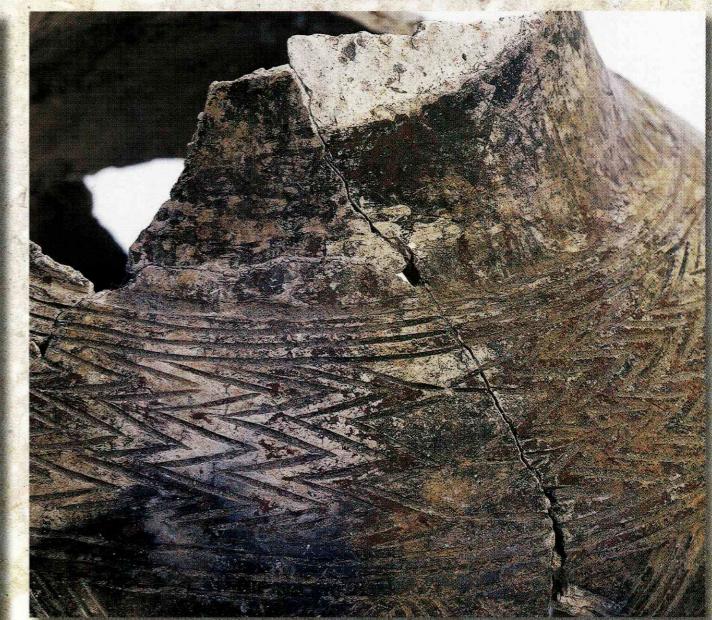
■ 米を炊いた甕と蓋

■ 吹きこぼれた跡が残る甕

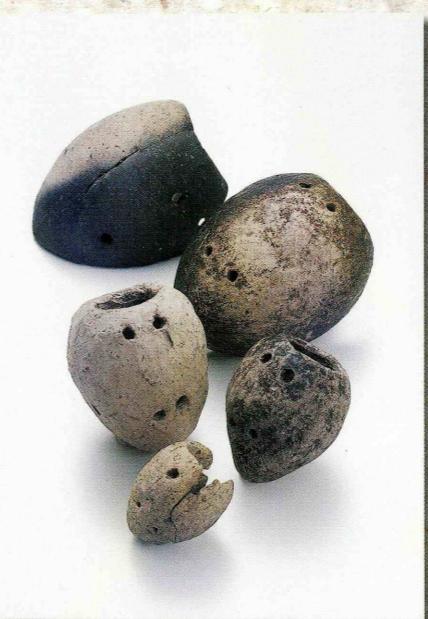
■ 米を貯蔵する壺



■ 黒と赤で塗られた壺



■ ヘラで模様を刻んだあと、黒と赤で塗られた壺



■ お祭りで吹かれた土笛



■ 現在の稻穂

■ 9粒の糀の圧痕がある
弥生前期の土器の底

弥生時代に使われた道具

矢野遺跡では、土器や石器、木器、骨角器、
管玉などをつくりっていました。
いろいろな種類の道具をつくるムラは出雲

平野では少なく、弥生時代の矢野遺跡が特別な
ムラであったと考えられます。



いろいろな石の道具(木を切る・削る、土を掘る、稻穂を摘む…)



黒曜石の原石(隠岐産)から石鎌などをつくる



狩猟につかった石鎌(未製品と完成品)

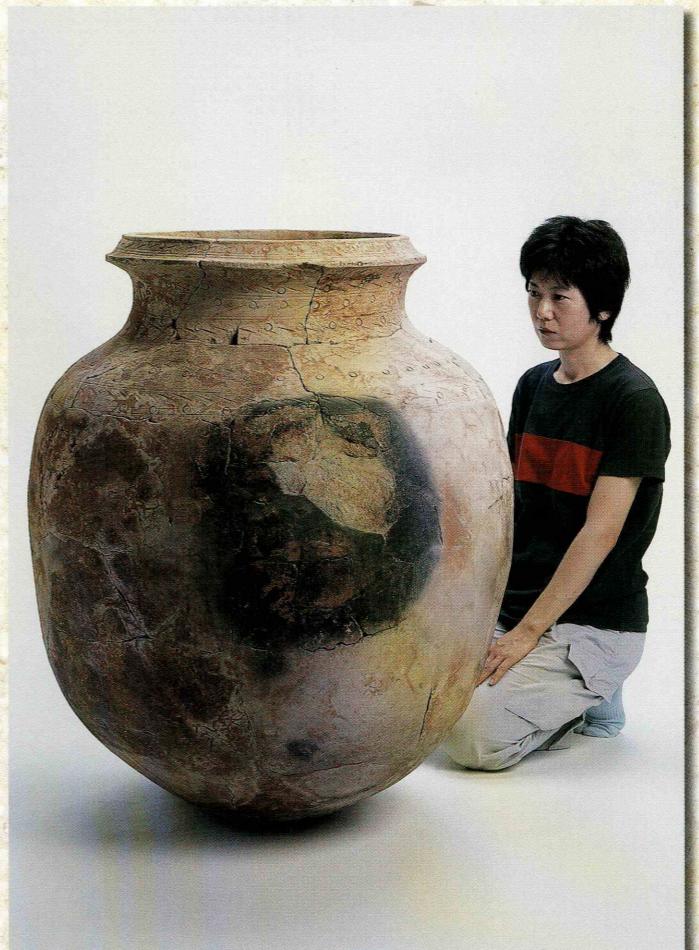


糸を紡ぐ紡錘車(未製品と完成品)

管玉などのアクセサリーの未製品



いろいろな木の道具(鍬・スコップ、櫂、容器、ソリ…)



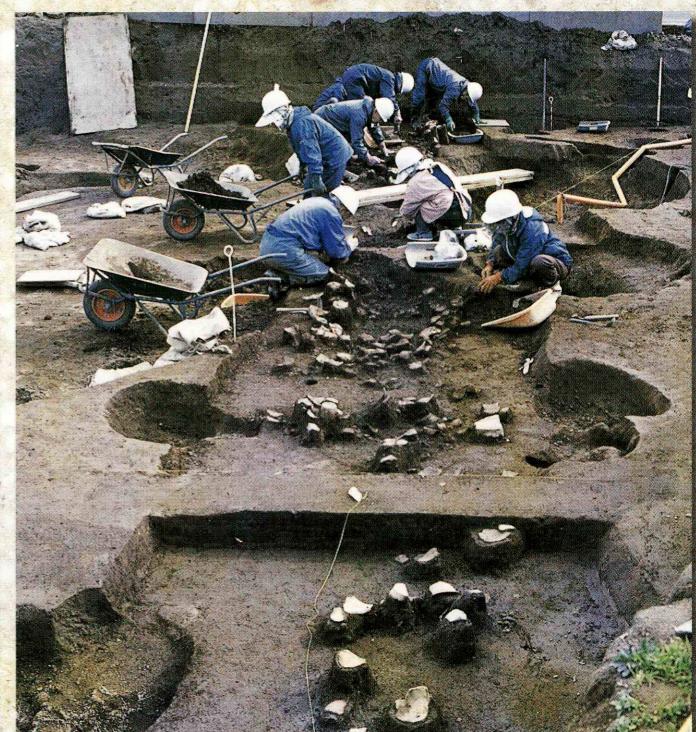
超大型の壺(「お棺」かな?)



シカ(左)とイノシシ(右)の骨



石とガラスのアクセサリー(勾玉・管玉・小玉)



発掘作業のようす—弥生時代のくらしがよみがえる—